

平成28年度 学校評価報告書(目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (平成 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月18日実施)	総合評価(3月30日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒一人ひとりの目標実現に向けたカリキュラム・マネジメントを進める。 ②工業高校生に求められる学力の向上を図る。	①教育課程の見直し ②評価方法の共通化による授業改善	①プロジェクトチームを作り、現在の教育課程及び授業形態の課題を整理する。 ②科目単位で評価方法の共通化を進め、授業改善につなげる。	①教育課程及び授業形態の課題を整理し、方向性を定めることができたか。 ②共通テストほか、評価方法の共通化を進めることができたか。	①プロジェクトチームを立ち上げ、授業時間数確保の方向性を定めることができた。 ②評価基準の共通化を、各教科会で進めることができた。	①定めた方向性を実施するために、調整すべき点がある。授業形態の検討は、継続課題である。 ②教科会をさらに活性化し、評価方法の共通化を進める必要がある。	①現在放課後等に行っている学習活動を、授業の中の取組とするのは理解できる。 ②他教科の授業から、評価方法を研究するのはよい。	①授業時間数確保の方向性を定めることができた。具体化に向けた調整と、授業形態の見直しを進める。 ②評価基準の共通化は浸透してきたが、十分ではない。	①育成したい力を各教科で明確にし、そのために必要な授業形態を改めて検討する。 ②教科会を行事予定に組み込み、評価方法の共通化をさらに進める。
2	生徒指導・ 支援	①社会や産業界に期待される規範意識の向上を図る。 ②豊かな人間性や社会性を培う生徒の主体的活動を支援する。	①「磯工ブランド」に対する生徒の意識の向上 ②学年を越えた生徒の主体的活動の支援	①日常生活や集会等で、生徒一人ひとりの行動が「磯工ブランド」を作っていることを理解させる。 ②学年を越えた活動を、生徒会行事の中で設定する。	①生徒は「磯工ブランド」を意識して、学校生活を送ることができたか。(生徒アンケート) ②学年を越えた活動を行う生徒会行事を実施できたか。	①集会等で、自分たちの行動が「磯工ブランド」を作っていることを繰り返し話すことができた。 ②磯工祭科展や、生徒会役員の活動で複数学年による取組みがあった。	①一部の生徒、特に下級生に「磯工ブランド」を意識した行動が取れていない者がいる。 ②より広い範囲で、複数学年による活動ができるように設定する必要がある。	①挨拶がきちんとできている。一部の生徒は、気の緩みが授業態度や服装に出ていた。 ③卒業時アンケートで9割以上の生徒が「本校で学んだことは今後役に立つ。思いやり・社会貢献の気持ちが強くなった。」と回答している。より多くの生徒に早い時期から意識を持たせることが課題である。 ②現行の行事に加え、複数学年による活動機会を設定する。	①引き続き日常生活や集会等で、「磯工ブランド」が生徒一人ひとりの行動により作られている大切さを理解させる。 ②複数学年による主体的な活動機会となりうるものを、現行行事・新規活動ともに検討し、試行する。	
3	進路指導・ 支援	①生徒一人ひとりの可能性を引き出す進路指導を行う。 ②社会・産業界に期待される資質・能力を育成する。	①ガイダンス内容の見直し ②資格・検定取得の支援	①現在のガイダンスの課題を整理する。 ②資格・検定取得の支援を充実させる。	①ガイダンスの課題を整理し、改善方法をまとめることができたか。 ②資格・検定取得の割合を高めることができたか。	①進路情報の公開方法を工夫し、資料の見方を詳しく指導できた。 ②資格・検定取得の支援を、グループ・教科等で積極的に行うことができた。	①1・2年次のガイダンスは、まだ改善の余地がある。 ②取得割合は、資格・検定毎に増減がある。	①進路が決まった後の指導を充実できるとよりよい。 ②資格・検定取得の支援を、グループ・教科で積極的に行うことができた。実績をあげる指導体制が、課題である。	①3年次の進路決定までのガイダンスは、改善充実してきた。今後は1・2年次、及び進路決定後の指導の充実が課題である。 ②授業時間内にできる支援内容を検討する。効果的な補習のやり方について、学校全体で情報共有する。	
4	地域等との 協働	①産業界との連携の充実を図る。 ②地域との連携・協働を推進する。	①デュアルシステム充実の方向性の検討 ②地域連携の推進	①現在のデュアルシステムの課題を分析し、今後の取組方法について検討する。 ②地域と連携した各種活動の機会や参加生徒数を増やす。	①デュアルシステムの今後の取組方法を定めることができたか。 ②地域連携活動の機会や参加生徒数を、昨年度より増やすことができたか。	①デュアルシステム受入企業を6社から8社に、参加人数も9名から12名に増やすことができた。 ②地域貢献活動、防災訓練、近隣の小・中学校行事連携により、地域連携活動の機会を確保した。	①現行の3年次実施が最善の方法であるか、さらに検討が必要である。 ②活動は充実しているが、参加人数はあまり変わらない。	①現場を体験して学べることは多い。継続してほしい。 ②地域貢献活動で自宅環境を整備してもらい、前向きな気持ちになった住民もいる。毎年、感謝している。	①デュアルシステム、インターシップともに、受け入れ企業・参加生徒ともに増やすことができた。 ②それぞれの地域連携活動を、充実した内容で実施できた。さらに参加生徒数を増やすには、回数を増やすか新規開拓の必要がある。	①充実して継続するため、よりよい方法・実施年次について検討し改善する。 ②地域町内会、小・中学校、団体と話し合いの場を持ち、今後の連携活動について回数を調整し、新規活動を検討する。
5	学校管理 学校運営	①事故を防ぐ業務手順の整理 ②防災に係る校内体制の整備	①内規・マニュアルの見直し ②校内の施設・設備の安全対策の強化	①内規・マニュアルで修正が必要な箇所を確認し、適正な文書に整理する。 ②ロッカー等の転倒防止措置の徹底と、校内の危険箇所を総点検する。	①内規・マニュアルの必要な修正等ができたか。 ②危険箇所を改善し、具体的な対応ができたか。	①成績処理の手順をより適正な方法に整理し、実施できた。 ②環境整備事業として生徒・PTAとともに、ロッカー等の転倒防止金具の設置を行った。	①内規の文章が、現状にそぐわない箇所がある。 ②転倒防止金具を設置すべき箇所が、まだ残っている。	①事故防止の観点で、現行作業を見直すことができた。内規の文章も、同様の観点で見直す必要がある。 ②ロッカー等転倒防止の措置を取ることができたが、完了するのは有意義である。	①内規・マニュアルの整理を継続し、より適正なものとする。担当箇所を明確にして、グループ単位で取り組む。 ②転倒防止への取組を継続するとともに、他の危険箇所への対応にも着手する。	